自転車走行経験が歩道上の障害物の回避行動に与える影響

西野　拓実

近年、自転車の対歩行者の事故が相対的に増加している。その原因として、多くの自転車運転者が歩道上を走行していることが考えられる。本研究では歩道上を走行する自転車の障害物に対する回避行動を運転経験の差によって検討した。更に、運転経験による走行の特徴を調査した。

まず、実車実験を行った。そこでは自転車が障害物（3 条件:モノ・正面ヒト・背面ヒト）に向かって走行し、その回避幅と回避開始地点と障害物の距離を測定した。実験後に質問紙調査を行い、リスク認知評価も行った。その結果、運転経験によって回避行動が異なったが、リスク認知との関連は見られなかった。しかし、ヒト条件のとき、障害物が動かなかったため、正しいリスク認知評価が行われなかった可能性があった。

実験での問題点を解決するため、障害物を含む歩車道路の画像を提示し、障害物に対する回避行動、リスク認知評価を行った。また、運転経験による走行の特徴を評価するため、「事故経験」「走行に対する不安」「危険行為」も調査した。その結果、運転経験によって回避行動とリスク認知の両方が変化したが、リスク認知が回避行動に影響を与えていなかった。また、運転経験が長くなると、事故経験が増加する一方、走行に対する不安の低下や運転技術の過信による危険行為の増加が見られた。

以上の実験と調査により、運転経験によって回避行動とリスク認知に影響を与えることが分かった。また、自転車運転者が回避行動を起こす過程に関する知見が得られた。本研究は今後の自転車事故防止に役立つだろう。しかし、回避行動を起こす要因を明確にできなかった。その点について、検討が必要である。（安全行動学）